



せとまちだより

SETOMACHI-COMMUNITY NO 51

令和 6年 2月28日(水)
瀬戸地域まちづくり協議会
香岐市芦辺町箱崎大左右触924
080-8574-5853
発行責任者 町田 正一

芦辺港ターミナル前に花を植えました!

瀬戸小学校6年生から「卒業記念に花を植えるとか、地域のために何かをしたい。」との申し出がありました。長崎県愛護団体が芦辺港ターミナル前に設置しているプランターが老朽化のため新しくしたいとの情報があり、愛護団体が入手された焼酎樽を当協議会が加工、土入れをしました。花は愛護団体から提供を受けました。2月1日(木)午後、小雨がパラつく天気でしたが、学校から徒歩で来た12名(2名欠席)の児童の手により花が植えられました。樽の中心にレモンの苗木を、そのまわりに各種の花を植えました。レモンの木が大きくなるのが楽しみです。6年生の皆さん中学生になっても自分たちが植えた花や木をたまのは見に来て下さい。芦辺合同海運や売店の皆さん水やりありがとうございます。



令和 6年 1月 31日
長崎県警察本部
生活安全企画課
095-820-0110

もってこいネットワーク通信

第 3 号



ネットバンキングによる不正送金に注意!!



ネットバンキングを悪用して、犯人から勝手にお金を引き出される被害が発生しています!



犯人に、口座番号と暗証番号を教えてしまうことが、被害の原因です。

それが一番大事



●他人に暗証番号を教えない

犯人は色々な口実で聞き出そうとします。それでも...

●他人に暗証番号を教えない

犯人が銀行や警察を名乗っても油断しないで。

●他人に暗証番号を教えない

ようにしてください。

注目!

暗証番号さえ教えなければ、不正送金は防げます。



(犯人が使う口実の例)

警察の捜査にが必要です。

口座が不正利用されています。

投資金の振り込みにが必要です。

※実際には、暗証番号に加えて、口座番号やネットバンキング開設用のワンタイムパスワードを教えてしまい、被害に遭っています。

せとまち歩きマップ完成しました!

令和2年から作り始めた「せとまち歩きマップ」が完成しました。制作は、移住して来られたイラストレーターの古川健太(こがわけんた)さんにお願ひしました。瀬戸の歴史や観光・グルメ情報・イラスト満載のマップです。

今後は、まず、各世帯に配布します。これさえあれば瀬戸のことが良くわかります。家族や同級生など帰省された時は是非、活用ください。他に、小学校のウォークラリーなど。

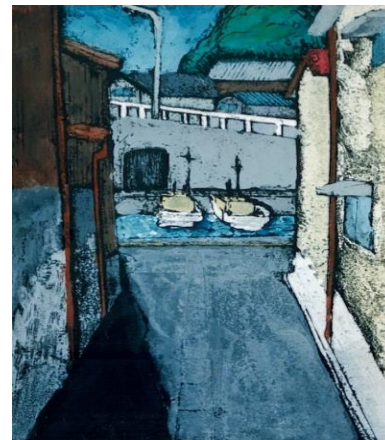
観光案内所、土産物屋、地域の商店にも設置を依頼します。

そして、まち協主催のまち歩きイベントを年1回は、実施できたらと思っています。その時は皆さん一緒に歩きましょう。

掲示板情報

前にお知らせしましたが、30年前の箱崎中学校生が描いた「瀬戸の絵」を蟹田の掲示板と南町たるや商店さんの入り口付近に掲示しています。

みなさん～見てください。



蟹田・恵美須入口 一時停止を!

最近、一時停止をしなかったばかりに、「その車止まりなさい」と言われ、反則金7,000円払うことになった人が数人。必ず、3秒位は停止しましょう。



プレイバック 先の川住田酒店界隈の今昔

先の川住田商店の浜側と中通り（玄関）の写真です。

本来、住田家は西町で、水産加工業を家業としていました。大正9年対馬商船株式会社が創立されると住田貞市郎氏は、芦辺港で汽船問屋を経営、後の北九州郵船株式会社、現在の九州郵船株式会社に継続した。昭和12年頃。先の川中村さんの隣に移った。住田氏が漁協組合長の時は、汽船問屋の事業は組合がした。組合の事務所は先の川公民館の所でした。恵比寿神社（事代主神社）前の家が、布谷房市氏の住居とともに汽船の切符売り場と待合所になった。住田氏の組合長終了とともに汽船関係の事業の権利は住田氏に移ったが、切符売り場、待合所はそのままだった。昭和35年に現在の住田酒店のところに移り、昭和49年の合同海運の発足まで続いた。（瀬戸浦史 参照）

写真 住田裕子さん提供



昭和35年以降

↓現在



大屋根の建物は同じだが、隣の空地には中村さんの家が建っている



↑現在の住田さん宅前建物は建て替わっている



先の川 大三元食堂前

昭和40年代 婦人会の集まり？ 同じうわっぱりを着ていることは何かのイベントの後の記念写真でしょうか。大三元食堂は何を食べても美味しかったですが、たまにいただく餃子の味は格別でした。

昭和の助産師さん



昭和のころ、瀬戸では川口ハル子さんと山内フジエさんが、助産師として活躍されていました。

川口ハル子さんは、徳島県出身で、結婚後、夫 川口福太郎氏の郷里の吉岐で昭和5年から瀬戸尋常小学校に看護婦として奉職し、昭和18年退職。その間、児童の健康維持のため献身的に尽くされ、同時に地域では助産師として多数の人の出産を助けた。（瀬戸浦史）

山内フジエさんは、産婆ふじしゃんの愛称で皆から親しまれていました。昭和41年からは地域だけでなく、新設された芦辺町母子健康センターでも芦辺町内のお産や母子のケアに努められました。

新生児がいる家庭には、入浴させるために家庭訪問。風呂上がりには白い天花粉を首や足の付け根に振りかけていました。すべり落ちないかハラハラしたばね式手ばかりでの体重量りは心配するのが余計なことでした。あやしながらの湯浴み光景は思い出せますが、何と言ってあやしていたのか覚えていません。←写真：昭和63年10月ころ

瀬戸鬼風倶楽部紹介

鬼風を次世代に残すために「瀬戸鬼風倶楽部」は平成29年に発足、今年で7年になります。40歳代～80歳代まで、13名の会員が、世代を越えて活動をしています。たまにはお酒も。（会長 川添賢治）

活動内容は、瀬戸浦会青年部風揚げ大会に協力、小学校の風づくりも請け負っていますが、風づくりできる会員が高齢であり、この風揚げ大会を持続させるためにも風づくりの後継者を育てることが課題です。そのための活動のひとつとして、まち協と協力し、親子風づくり教室を開催しました。

他にも、秋から春まで風の強い日には左京鼻で鬼風を飛ばし、訪れた観光客を楽しませています。また、福岡で隔年開催されている風揚げ大会にも参加、吉岐鬼風をPRしています。

※ 写真は令和5年4月の風揚げ大会です



1年生



6年生



60歳代後半～80歳代前半シルバー年代（あえて老人とは書きません）の会話から・・・「乾燥機に洗濯もんば入れようと扉を開いたら補聴器があったばな。ポケットに補聴器ん入っちゃったとやろなあ」「そん補聴器は洗濯しちょるけん使われんやろうね」「近頃、聞こえんけん補聴器ば買わなでけん」「補聴器は高からうが」「ネットやテレビショッピングは4、5万円ばかりばってん病院にお願いしたらいくらやろう？」「近ごろは人が多い所や会議では、何を言っているのかわからん。聞こえたふりばしちょる」「体温計がぴ～という音も聞こえんとやけん」「だあれん一緒たい」・・・結局、補聴器はどうするのかやむやの内に会話は終わりました。